

平成28年度 行政評価事業別シート

実計対象		■	評価対象	■	新規	□	完了事業	□	ゼロ予算事業	□	担当者	富沢文洋・神林久雄
全体計画							経費区分	実施計画事業費		内線	3518	
事務事業名		10660 屋代線跡地活用事業										
所 属		200100 まちづくり推進部・道路河川課										
施 策		06033300 橋や道路整備の推進										
予 算		01 一般会計										
科 目		080203 土木費・道路橋梁費・道路新設改良費										
事 業		030000 屋代線跡地活用事業										
事業目的						事業概要・効果						
須坂市長野電鉄屋代線跡地活用基本構想に基づき、長期的なまちづくりの推進や沿線地域の諸課題の解決を図り、活力ある地域づくりと交通体系の充実を図る。						力ある地域づくりと交通体系の充実をはじめ、地域住民の日常生活に必要不可欠な生活関連施設であり地域振興に大きく貢献する役割を果たす。						

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 予定
維持管理	維持管理ならびに、県の元気づくり支援金を活用した手作り普請協働事業により、地域住民と協働して簡易舗装の整備を行なう。
平成29年度 予定	平成30年度 予定
平成31年度 予定	平成32年度 予定

指 標 名	旧屋代線跡地整備工事				
算 式					
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由	須坂市長野電鉄屋代線跡地活用基本構想に基づき須坂市長野電鉄屋代線跡地利活用庁内検討委員会議論経過により整備内容を策定				
最終年度目標の根拠	須坂市長野電鉄屋代線跡地利活用庁内検討委員会議論経過				
指 標 名					
算 式					
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					
指 標 名					
算 式					
年 度		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度
目 標 値	目 標				
	実 績				
指標選定の理由					
最終年度目標の根拠					

事業費

(単位：千円)

		平成27年度 決 算	平成28年度 予 算
事業費		295	5,900
特 定 財 源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	2,700
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		295	3,200
人 員 数 (人)	正規職員	0.2	0.2
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
人 員 コスト	正規職員	1,441.6	1,441.6
	嘱託職員	0.0	0.0
	臨時職員	0.0	0.0
	計	1,441.6	1,441.6
市民一人当たりの経費		0.0	0.1
総額		1,736.6	7,341.6

(単位：千円)

平成27年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	295	除草等業務委託
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	0	

(単位：千円)

平成28年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	0	
11節 需用費	0	
13節 委託費	500	草刈り委託
15節 工事請負費	0	維持管理工事費
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	5,400	手作り普請協働事業による簡易舗装の整備

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか ・行政内部の管理運営上必要な事業であるか ・市が主体となり実施すべき事業か ・法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか ・目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	やや低い
評価コメント	住民からの要望もあることから、維持管理費の削減と跡地の有効活用を行うため、地域住民との協働により簡易舗装を行なう。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果は上がっているか ・目標に対する達成度は十分か ・市民生活上の課題解決に貢献しているか ・行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか ・事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	普通
評価コメント	継続的かつ中長期的に維持管理費の削減につながるとともに、地域住民との協働事業を行なうことで、住民主導の維持につながっていく。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか ・効率性向上に努めているか ・使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや悪化
評価コメント	今後の維持管理に住民の理解が必要となる。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

維持管理に対する住民の理解を得る。

ACTION**1次評価**

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
跡地の有効利用・維持管理等も含め、地域住民との協働事業として継続して進めていく。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
地域住民の利便性の向上、快適な生活環境の充実を図るために地域にあった活用方法で協働事業として進めていく	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	